

2024年9月3日（火） 蔦川清掃活動・魚類の移動経路の維持活動

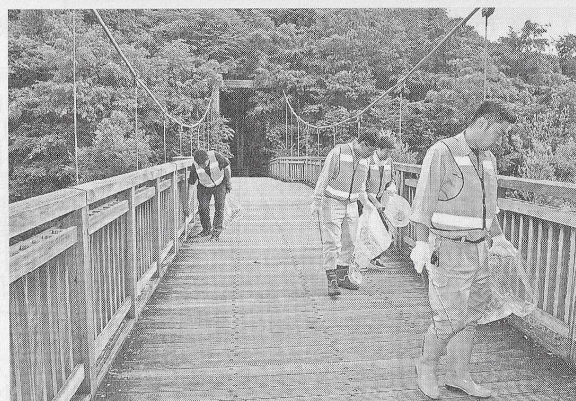
～2024年9月5日（木） 日刊建設青森 （4面）記事～

秋の行楽期を前に 蔦川清掃奉仕活動

川を愛する会

あおもりの川を愛する会（会長・佐々木幹夫八戸工業大学名誉教授）は3日、十和田市焼山の蔦川渓流で第19回蔦川清掃奉仕活動（協賛＝県砂防ボランティア協会）を行い、本格的な秋の観光シーズンを前に沿川のゴミ拾いに汗を流した。

清掃活動には会員の他に、青森県建設業協会



蔦川沿いのゴミ回収に汗を流す参加者

上北支部（井上馨支部長）の会員や県上北地域県民局地域整備部（常田明部長）の職員ら合計72人が参加。佐々木会長に代わりあいさつに立った田村義行幹事は、ゴミの量が当初に比べて減少傾向にあるなど清掃奉仕活動の成果に触れた上で、「今回は5年ぶりの活動でもあり、素晴らしい蔦川の景観を守れるよう一丸で頑張ろう」と激励した。

この日の十和田市は夏日を記録するなど厳しい残暑の中での活動となったが、参加者はゴミ袋を片手に軍手や長靴姿で約2時間にわたって蔦川渓流や遊歩道のゴミ拾いに励んだほか、危険な箇所がないかどうかチェックしながら蔦川沿いを見回った。また、蔦川に生息するイワナの生息環境保全を目的に改良工事を施した魚道6か所の点検も実施。会員が堆積土砂や洗堀の有無などについて丹念に現地調査するなど、魚道機能が正常に維持されているかどうかを確認した。

活動終了後、常田部長は「多くの方々に参加していただき、感謝申し上げます。ほとんどゴミが見当たらなかったのは、長きにわたる清掃奉仕活動のお蔭であり、今後も蔦川の水辺環境を残していくため共に頑張っていきたい」とコメントした。

この清掃活動は、蔦川の美しい自然環境の保全を目的に、秋の行楽シーズンを前にしたこの時期に毎年実施しているもの。近年は新型コロナウイルス感染症拡大などにより中止を余儀なくされていたが、今年は5年ぶりの実施となった。